

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		豊橋市立高山学園		公表日		令和8年3月10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20	0			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	17	3		適切であると思うが、子どもの状態においてはプラスで人がいたらいいなと思うことがある(1対1のときなど)。作業療法士の配置により、療育の質の向上や専門的な支援につなげていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	1	作業療法士の助言や、職員間で検討しながら、構造化した環境づくりに努めている。	車椅子が通れるよう坂道の場所もあるが、角度が急であったり幅が狭かったり、活用しきれない。構造化に関しては、まだ改善できる場所がある為、引き続き考えていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	19	1	遊具点検や、玩具、療育室等定期的に消毒を行っている。	今後もガイドラインに沿った衛生的で安全な環境づくりに努めていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20	0	クラス以外で遊べる部屋があり、定期的に環境をかえることで、落ち着いたり遊んだりするなど、一人ひとりに対応できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	20	0	ミーティング等を行い、情報共有を図っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	0	年1回の事業所評価を行い、意見を職員間で共有し、改善を図っている。	改善に至らないことについては、理解がいただけるよう努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	0	職員に面談等を行い、できるところから改善を進めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				今後、実施に向け検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	0	様々な分野の研修を受講したり、職員のスキルアップのため、園内研修の充実に努めている。外部講師による定期的な勉強会も開催している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	20	0	児童発達支援ガイドラインに即して支援プログラムを作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20	0	子どもの支援に関わる職員で情報共有を行い子ども理解に努め、個別支援計画に反映させている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	18	1		標準化されたツールを現在検討中。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20	0	アセスメントを基に支援の内容を検討し、願いやねらいを掲げ、具体的な支援内容を計画に載せている。個別に合わせた4つの支援内容を載せている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	20	0	子どもの姿を踏まえ、クラス単位で立案し振り返りを行っている。	療育の振り返りの時間が十分に確保できるようにしていく。	

児 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20	0	毎月クラスミーティングを行いながら子どもの姿に合わせて話し合っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	20	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20	0	毎朝、支援開始前にミーティングを行い、情報共有をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20	0	子どもの姿についてその都度話し、共有している。 その日行われた支援の振り返りを行い、翌日の療育につながるようになっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0	定期的にエピソード記録を取り、子どもの思いや育ちについて検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	1		支援の方針を見直したときに、児童発達支援計画に反映できるようにしていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20	0	児童発達支援管理者が参画し、保護者や利用者の意向を踏まえ支援の方向を検討している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20	0	必要に応じて連携を図ったり、療育関係者会議などに参加し、情報共有を図ったり、相談体制を構築している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0		移行に向けた支援は丁寧に行っているが、併行利用は行っていない。併行利用の必要性を鑑み、今後検討していきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0	必要に応じて連携を密に図り、支援が途切れないように意識している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	16	0	こども支援専門部会の事務局として関わり、こども通所支援事業所連絡会やこども通所支援事業所交流会、児童通所職員向け講座に参加するなど地域の質の向上に努めている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	16	0	専門職や外部講師を招き勉強会を行ったり、積極的に研修参加している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	17	0	自立支援協議会のこども支援専門部会の事務局として活動している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	0		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20	0	月に数度保育園に行き交流する機会がある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0	月1回程度の個別遊びや午後参観などで時間を設け共通理解を図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	18	2	サポートブックの作成、研修などを行っている。 卒園児保護者を招いて情報共有する機会を設けている。 ペアレント・トレーニングは療育関係のチームで行っている。	必要な保護者のみの情報提供になっている。ニーズに合わせた家族支援が行えるよう努めていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18	2		十分な説明に努めていく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	0	機会を設け、アセスメントをしっかりと行うよう心掛けている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	0	前期、後期懇談会を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	0	丁寧に話を聞き、気持ちに寄り添うよう心掛けている。 個別あそびで話す時間を作っている。 必要に応じて随時、話し合いの機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	19	1	保護者会で保護者同士の交流する機会や、情報共有の場としてのグループ懇談を行っている。 運動会できょうだい児向け競技を企画している。	きょうだい同士の交流の機会を十分設けられていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	0	内容に応じて電話や園での面談を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20	0	手紙やアプリ（icuco）を使用して伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20	0	鍵付きのロッカーに閉まったり、机の上に置かないようにするなど配慮している。 リスクマネジメント会議を定期的に行い、周知している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	個別のケースに合わせて配慮するよう努めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	10		コロナ禍より地域住民の方に参加いただいていない。地域に開かれた事業所となるよう努めていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20	0		家族等へのマニュアル周知を十分に行えるよう、より良い周知方法を考えていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20	0	BCPを作成し、定期的に訓練を実施している。	訓練内容については都度検討し、よりよい訓練の実施に努めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20	0	保護者から情報をいただき、対応している。 子どもの姿を定期的にミーティングで共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0	かかりつけ医の診断によるアレルギー疾患生活管理指導表を提出してもらい、嘱託医と確認を取り適切な対応に努めている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20	0	定期的にリスクマネジメント会議を行ったり、施設の安全管理のチェックを行うなど、安全に十分留意している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20	0	朝のミーティング、会議等で共有、話し合う機会がある。	ヒヤリハットをもう少し活用できるよう努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	虐待防止委員会を開催し、園独自の権利擁護や不適切なかかわりについてチェックリストを用いて確認している。 職員が外部研修に参加している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	0	必ず保護者に確認しながら行うようにしている。 身体拘束については、保護者と確認するとともに、記録を取り、定期的に必要かどうか職員で話し合っている。	